

ゆ ん ぬ

与論の歴史・文化・社会を調べる！

与論のシニグ祭祀の祭祀場の考古学調査を踏まえて

本報告は、与論郷土研究会との共同調査研究の成果です。共同調査の目的は、以下の5点です。（１）与論の「地」に、いつから人々が住み始め、住み続けてきたのか？ （２）「現在の集落的景観」は、いつから形成され、どのように展開してきたのか？ （３）それらは、「古老の方々の言い伝えや古文書・古地図などの記録」と、どのように関連するのか？ （４）与論の「歴史・文化・社会」を、地域住民および次代を担う子供たちに生きた歴史教材として、どのように活用ができるのか？ （５）その「歴史・文化・社会」は、周辺地域の奄美・沖縄諸島と、どのように関連してきたのか？

講師：呉屋 義勝（与論郷土研究会 会員、南島文化研究所 特別研究員）

1953 年、宜野湾市生まれ。沖縄県立普天間高等学校卒業。宜野湾市教育委員会を 2014 年に退職。専門は考古学。発表共著論文に「考古学からみた宜野湾」

（1994 年、『宜野湾市史』第 1 巻）、「与論^{ゆんぬ}の先人の生活跡を訪ねて！」（2019 年、『中山清美と奄美学』）など。

コメンテーター：上原 静（南島文化研究所 所員）

司会：崎浜 靖（南島文化研究所 所長）

日時：2019 年 10 月 21 日（月）16 時 20 分～17 時 50 分

場所：沖縄国際大学 13 号館 1 階会議室

※ 入場無料・事前申込不要

※ 聴覚障害等のある方で、情報保障の必要な方は、3 週間前までに、下記の連絡先までお問い合わせください。

問い合わせ先：沖縄国際大学 南島文化研究所 098-893-7967 nanchr@oku.ac.jp